

日本衛星ビジネス協会は12月14日(金)、神奈川県横須賀市光の丘にある日本電信電話株式会社（NTT）横須賀研究開発センターにて、今年度第2回目となる施設見学会を開催しました。



NTT 横須賀研究開発センター

横須賀研究開発センターはサービスエボリューション研究所、メディアインテリジェンス研究所、未来ねっと研究所、アクセスサービスシステム研究所で構成されており、今回見学させていただいたアクセスサービスシステム研究所では、より高速な光サービスを実現するための光アクセスシステムの高度化、光サービスの普及をサポートするオペレーションシステムの充実、光ブロードバンドサービス大量開通に向けた即応化技術をはじめ、ユーザが扱い易く簡単で便利な光ファイバ・ケーブル技術、ワイヤレスアクセスによるシームレスなアクセス手段の提供、ケーブル、地下管路といった各種インフラ設備の経済化など、アクセス系に関するさまざまな研究開発に取り組んでいます。

見学会では、衛星通信サービス推進ディベロップメントプロジェクト ディレクタの廣瀬貴史 主幹研究員より『東日本大震災で利用された衛星通信システム及び小型衛星通信地球局のご紹介』というタイトルで、ご講演いただきました。通信インフラという私たちの生活に欠くことのできないサービスを未曾有の震災被害の中で如何に復旧させていったか、またその中で衛星通信システムがどのように活躍したか、興味深いお話をうかがうことができました。



その後、講演の中で紹介された小型衛星通信地球局を構成する「可搬型アンテナ」と「車載型アンテナ」の実機デモを見学させていただきました。「可搬型アンテナ」は、自動車などで運搬できないような被災地に対しても、運用者が手で持ち運ぶことができるタイプのアンテナです。分割・組立式のアンテナ鏡面を採用しており、トランクに収容して運搬できます。組立、収容には工具を使う必要は一切ありません。また、GPS センサと磁気方位計を用いて衛星を自動捕捉できるようになっていますので、設営者は特殊なスキルを有する必要がなく、15分程度の時間で機材をセッティングし、回線を開通させることができます。



実機デモ見学の後、展示ホールで音声認識技術を応用した議会録作成支援システムなど衛星通信系以外の多岐に亙る研究開発成果について紹介いただきました。



師走の忙しい折り、施設見学を受け入れていただきました横須賀研究開発センターの皆様、本当にありがとうございました。

また、施設見学、懇親会に参加いただいた会員の皆様、お疲れ様でした。次回、総会でお会いしましょう。